



大阪はびきの医療センター 第63号 令和3年8月

地域医療連携室だより



拝啓 盛夏の候、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。梅雨もあけ一気に猛暑となっておりますが、病診連携のさらなる充実を目指してまいります。

勉強会のご案内

第27回 医療でつなぐ地域連携ネットワーク

South Osaka Cure & Care (SOCC)

この勉強会は、大阪はびきの医療センターと7医師会（柏原市医師会 羽曳野市医師会 藤井寺市医師会 松原市医師会 大阪狭山市医師会 富田林医師会 河内長野市医師会）、帝人ヘルスケア株式会社との共催です。

日時：2021年9月18日（土）15:00～17:30

場所：Web形式にて開催（Webex Meetings 使用）

内容：シンポジウム『コロナに対する在宅での対応』

座長 大阪はびきの医療センター 診療局長 川島 佳代子
大阪はびきの医療センター 臨床研究センター長 橋本 章司
大阪はびきの医療センター 感染管理専従看護師 橋本 美鈴
医療法人優心会 きのうクリニック
訪問看護ステーション 訪問看護師 大塚 敏志 先生

特別講演『がんのリハビリテーション診療 最前線

～がんと共存する時代の役割』

座長 羽曳野市医師会会長 調子 和則 先生
慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室
教授 辻 哲也 先生

（本講演は大阪府医師会生涯研修の単位を申請しております）

*詳細は、072-957-2121（代表電話）地域医療連携室までお問い合わせください。

8月 はびきのチャンネルのご案内

“新型コロナウイルス肺炎の画像所見”

8月19日（木）14:00～15:00

放射線科 竹下 徹 先生

- * 詳細および申し込み方法は同封しておりますチラシをご参照ください。
 - * 今までのはびきのチャンネルの動画をアーカイブとしてご覧いただけます。（登録医限定）
- 詳細は、地域医療連携室までお問い合わせください。

地域医療連携室から『事前予約』のお願い

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
当センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、外来診療をスムーズに行うために、〈予約診療〉と〈紹介状をお持ちの方のみ〉の診察を推進しております。

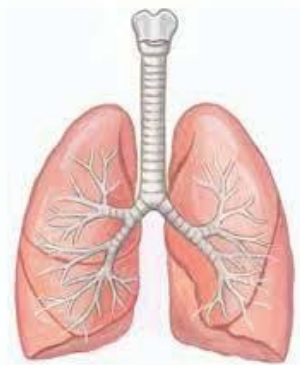
事前予約をせずに受診されると、待ち時間が発生したり、当日必要な検査を受けられない場合がございます。患者さんへの負担軽減のためにも、地域医療連携室を通して事前予約をしていただけますようお願いいたします。

*6月より肺腫瘍内科は医師の退職等により、事前予約は水・木・金曜日のみとなっております。事前予約をせずに受診いただいても、次回の受診予約のみの対応とさせていただきます。今後は、呼吸器内科と呼吸器外科にご協力いただき、できるだけ早期に予約診療ができるよう診療体制を整えております。ご不便をおかけしますがご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。詳しくは、当センターのホームページ「外来診療案内」をご覧ください。

呼吸器外科 vol.1

呼吸器外科 主任部長 門田 嘉久

呼吸器外科では、肺の悪性腫瘍(肺癌、転移性肺腫瘍など)、縦郭腫瘍、嚢胞性肺疾患、炎症性肺疾患など、幅広い呼吸器疾患に対応した診療を行っております。近年の高齢化・多様化する肺癌診療に対しては肺腫瘍内科・放射線治療科と協力し、診断～集学的治療まで対応することを基本としています。また昨年以降はCOVID19の感染状況に応じた感染症対策を行い、悪性疾患を含めた外科診療を継続してまいりました。



COVID19による肺癌診療への影響について日本肺癌学会の最近の報告を紹介します。



特定非営利活動法人
日本肺癌学会
The Japan Lung Cancer Society

(https://www.haigan.gr.jp/modules/covid19/index.php?content_id=4)

肺癌学会評議員が所属する施設を中心に(124/490施設:回収率25.4%)調査が行われました。2020年末以降の第3、4波の状況は含まれていないものですが、2020年(1~10月)と前年との比較で、新規の肺癌治療件数は減少しており、全体でおよそ-6.6%(手術治療-6.0%、薬物療法-8.6%、放射線療法-3.6%)でした。また、地域や施設間の差があり、COVID-19治療患者数が多い施設や公立病院でより顕著に減少していたことを示すものでした。本調査では、内科治療・外科治療いずれにおいても新規治療症例数の減少が示されていました。検診の休止や受診控え等による影響が懸念されるものであり、改めてがん検診の重要性を認識させられる結果となっていました。

市中の感染症対策やワクチンの集団接種が進んできています。滞っていたがん検診を望まれる方が受診してこられることかと存じます。精査をご希望される方がおられましたら、当センター地域医療連携室までご連絡ください。

ご紹介よろしく
お願いいたします。



当院皮膚科はほぼすべての皮膚疾患の診療に対応しています。

当科は常勤医師（レジデントを含む）6名が勤務しており、ほぼ随時入院加療が可能です。特に難治性疾患の診療に取り組み、アレルギー領域ではアトピー性皮膚炎の治療戦略を明確にし、既存治療の効果を最大化する方法を考案し、全国に発信してきました。アトピー性皮膚炎診療では新規治療薬の開発が進んでいますが、臨床試験にも数多く参加し、保険適用承認後は、既存治療と組み合わせた最善の使用方法を検討、実践しています。当科のポリシーは正確な診断と病態把握に基づき、治療を戦略的に進める姿勢で、このポリシーはアレルギー疾患以外の疾患でも共通です。

★水疱症（天疱瘡、類天疱瘡など）

両者とも指定難病です。ステロイド全身投与が治療の基本ですが副作用を最小限にするためには、早期に寛解導入し、その後の維持療法に移行する戦略的な治療が必要です。当院では、初期に入院の上、重症度に応じてステロイドパルス療法、血漿交換、免疫グロブリン大量療法、免疫抑制剤の併用等をおこない、速やかなステロイド漸減を意識した治療を行っています。

★脱毛症

急速に進行する全頭型は重症で発症後早期のステロイドミニパルスが有効とされています。3日間の入院点滴を行っています。

★感染症

带状疱疹、カポジ水痘様発疹症、単純疱疹初感染、蜂窩織炎、重症膿疱疹、SSSS、慢性膿皮症、発熱をともなう発疹症など。

★薬疹

急性期治療だけでなく、過去の既往から薬剤使用に困難のある患者様まで対応しています。

★皮膚腫瘍切除

皮膚科の手術日は金曜日です。良性腫瘍でも術後ドレーン挿入等が望ましい大型の腫瘤では、3日間の入院安静、日曜日退院と週末を利用した手術に対応しています。

★成人食物アレルギー

近年成人食物アレルギーが増加しています。当院では皮膚科が窓口となって診療しています。必要に応じて日帰り経口負荷試験をしています。

★アトピー性皮膚炎

適切な治療のために患者教育が重要です。2009年から外用による寛解導入をかねた教育入院“アトピーカレッジ”で長期予後の改善の実績を積んできました。最重症例では従来通りの2週間入院が必要ですが、最近では入院期間を1週間に短縮しています。増悪のタイミングが教育の機会と考え御紹介ください。

大阪はびきの医療センター 地域医療連携室

直通：072-957-8030 代表：072-957-2121

FAX：072-957-8051

地域連携室室長：川島 佳代子

マネージャー：秦 順子